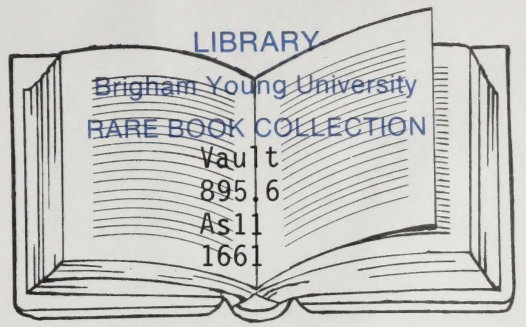


Handwritten text in a vertical column, likely a title or chapter heading, written in a cursive script.

丁



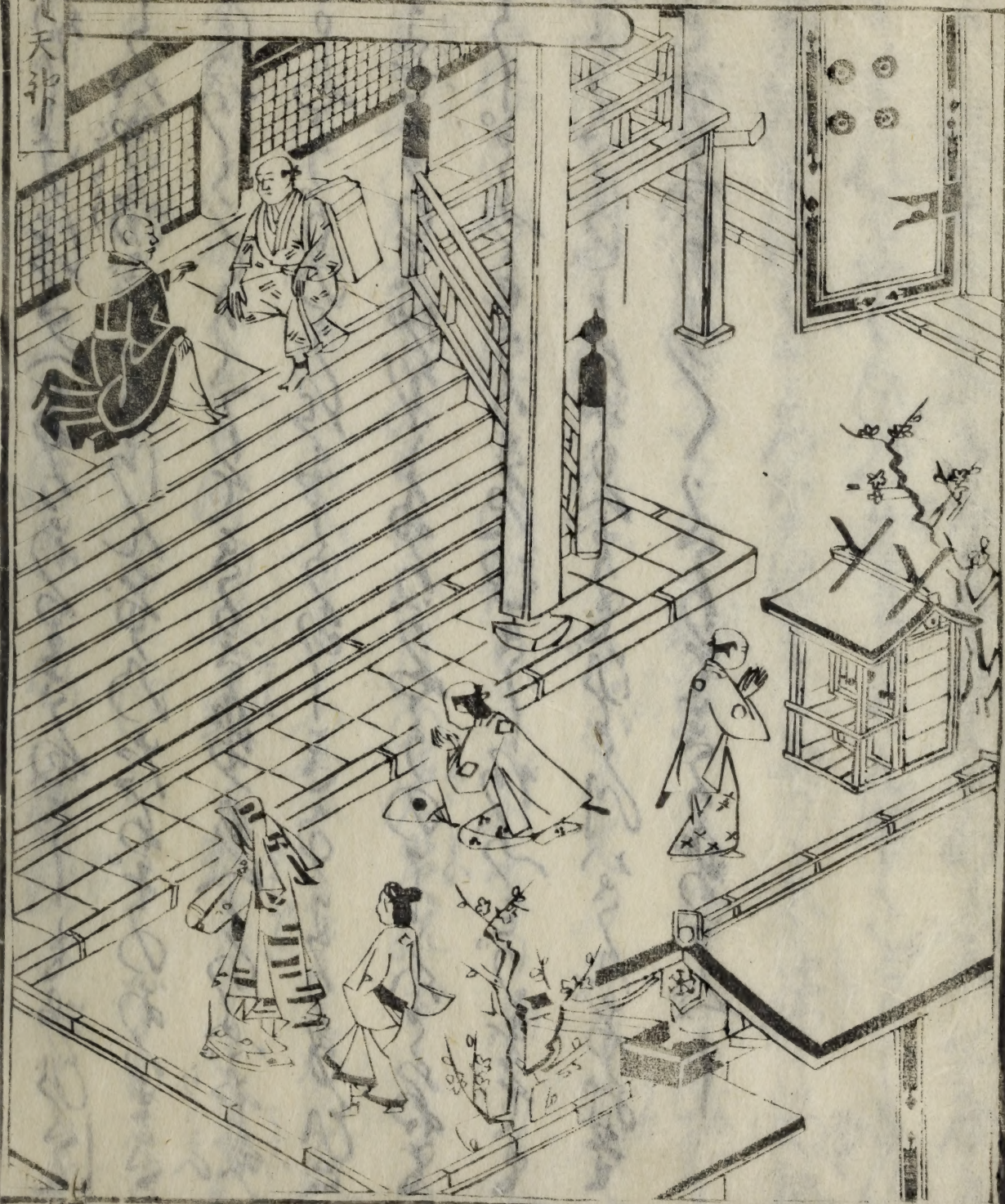
上
 三
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

[illegible]

[illegible]

五

少天部



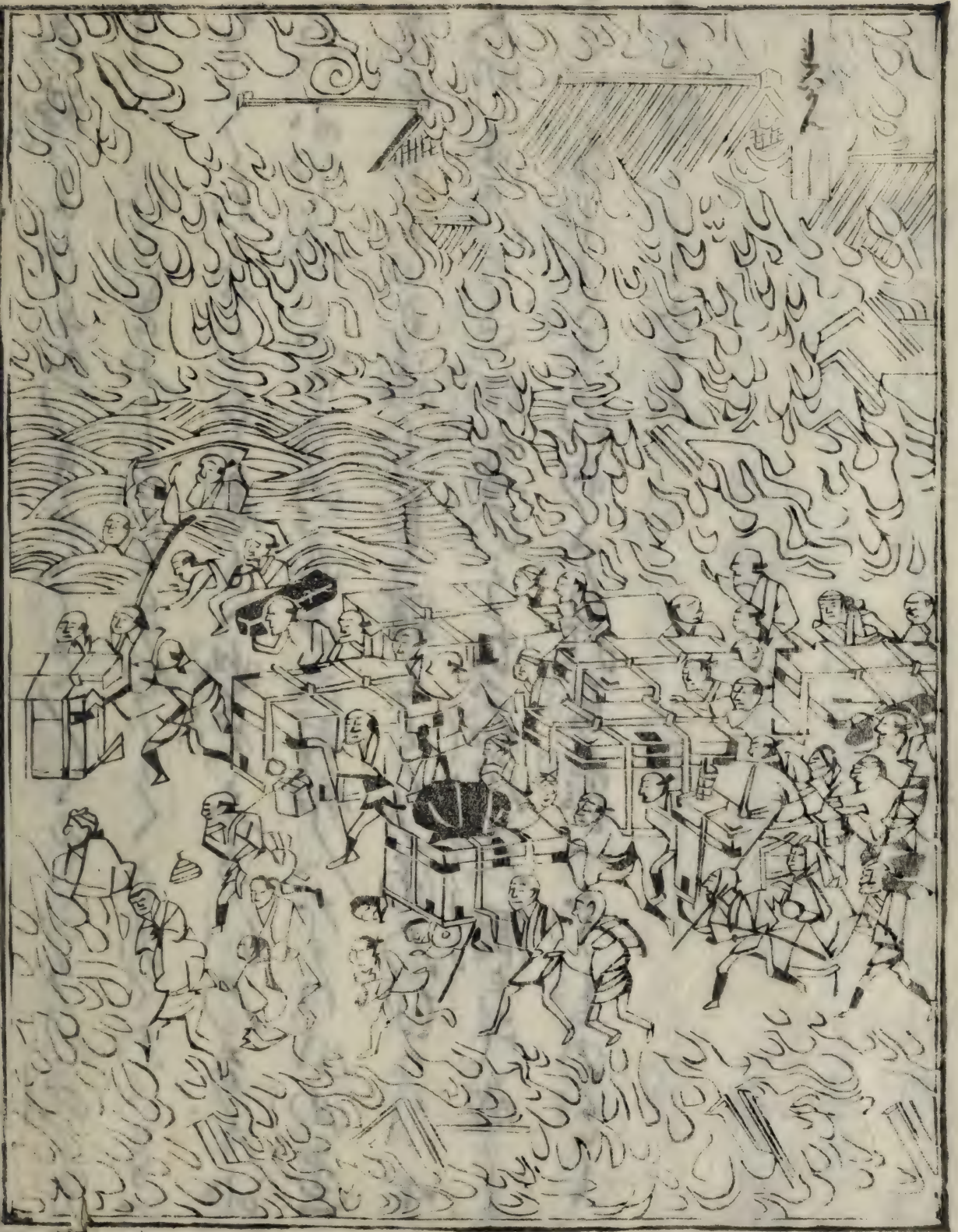
[illegible]

昂^{えい}阿^あ湯^ゆ崎^{さき}嶺^{りやう}嶺^{りやう}あ^あり。う^うこ^こわ^わ所^{しよ}一^いる^るら^らの^のう
ふ^ふる^るそ^そう^う一^いと^とび^びあ^あえ^え諸^{しよ}河^が臺^{たい}永^{えい}野^のも^もあ^あ
の^のこ^こ。戸^こ田^たう^うの^のめ^めれ^れみ^み。肉^{にく}者^{しや}ひ^ひご^ごの^のう^うこ^こ。松^{しょう}平^{へい}あ^あま
う^うさ^さら^らも^も。は^はは^は敏^{みん}う^うの^のや^やの^の粒^{つぶ}う^う所^{しよ}依^い行^{ぎやう}う^う。れ^れぶ^ぶ
と^とう^うど^どめ^めさ^さの^のう^う。諸^{しよ}河^が臺^{たい}所^{しよ}の^の大^{だい}ふ^ふ小^{せう}病^{びやう}。粒^{つぶ}百^{ひやく}乃^の
屋^や敷^しさ^さら^らま^まら^らふ^ふ。灰^{はい}焚^{たき}い^いの^のり^りあ^あり^り。そ^そき^きこ^こう^うり
所^{しよ}居^いう^うぬ^ぬう^うう^う。一^いと^とも^もぬ^ぬの^のぬ^ぬう^うく^くあ^ある^る。角^{かく}の^の割^{わり}は
う^うこ^こで^で風^{ふう}る^るあ^あは^はな^なり^りう^うき^きう^うく^く。咲^さき^きや^やり^りた^たれ
ん^ん。祢^ね田^た橋^{はし}へ^へ火^かう^うけ^けう^う。世^よに^にて^てう^うの^のか^かふ^ふた^た七^{しち}所^{しよ}で^で
て^て。二^に石^{いし}う^うの^の全^{ぜん}和^わさ^さる^る所^{しよ}へ^へう^うび^びう^うる^る。あ^ある^るを^をさ^さ
と^との^のう^うこ^こ。高^{たか}井^いま^ま。猿^{さる}正^{せい}。小^{せう}演^{えん}氏^しの^のか^か。将^{しょう}う^うの^のや^や。あ^ある^る。

おのゝの同い屋敷八所なりけし
ゆきふりやうのたうおしをさう
もたきふしつるまなうへらう
あうひのたうまうれあはれ
なるもまじき切利のまのう
とそやめおのふゆひてお
のふとんと風下とさうて
へりつる。具者さうをさ
らふらうひあうれさう
あふあつるらふらふ
るまうさうらふらふ
の院くふりらふらふ

[illegible]

め^え神よりえつきててとくをあらぐん^えを
 うわ^えれさもぶ^えてぬ^えもさる^えぬ^えく^えり^えの^えく^えあ^える^えき^え
 と^えと^えあ^える^えあ^えり^えも^えさ^える^えぬ^えと^えぬ^え失^えふ^えふ^えの^えあ^えん^えふ^え
 ぬ^えふ^えや^えぬ^えあ^えり^えの^え九^え子^え六^え百^え餘^え人^えなり^えべ^えゆ^え過^え
 も^えで^えら^えり^えと^えぬ^えく^えも^えど^え焼^えも^えく^えひ^えゆ^えり^えひ^えひ^え
 八^え所^えあ^えり^える^え煙^え竈^えの^えう^えち^えに^え大^え隅^えち^えれ^えぬ^え
 さ^えれ^えあ^えぐ^えく^えそ^えの^えあ^える^えれ^えを^え家^え一^え宇^えも^えの^えそ^えく^え
 ど^え焼^えう^えな^えふ^え



火災の図

八



うの目のまゝうふとそんであ風よくとせし
く咲きあてはさへ波さうくわがまをさうへまを
の冬さうひさしくあうさうまがうの切あうす
なれむさうさうあまうの冬風ふとびらる英十所
其町とるさうさうあまがえ付く城あうの程ふ
神田の明神はあまが社大佛園成つては城氏丹
波あま大田城あまむし松所さうく町ふさうさ
あまさうの城あまむし松所さうく町ふさうさ
橋あ切てみか城あまむし松所さうく町ふさうさ
あまさうの城あまむし松所さうく町ふさうさ
町あ城あうて城あまむし松所さうく町ふさうさ

りて押来るる。は中町屋のむきあひをえつり
なる事そやとて地ねさをもひ。夢もくこ家
被難を伝わりし言ひあるおれちものつゝあやめ
さて城ところをふせ過風狂びにじく吹きたて
あちうな堂へくる始々様々雨のもく同好お
因と膝くらひ出でなく横あまさらたをみだも
え付しつゝ集つゝあり也祐人ありてあきらめ令
ともどうらんとて井のりふ飛入海の中へ
進みたる後より下なるかみおれがま中木よりあま
れとてよきふくの火よりあて死するりのほ
百の千人なりとてみる下ゆぬ所町の火の燃ゆる

所不獲

李

2071

車

福

議

梅よりくちあもねあうま人のなうゝあ

夕乃體者燒之然其爲小者其爲大者

體者

う百子れうちの崎^{あり}地^{あり}ありとくやと美と

ねびしともつちありき。親おやみ成なりううあり

親

ふんこばやよきまゝわひりみあひせ

三所不程よ。わろひ人よ。まゝとあらさ。まゝ所をひ

之車ふたれふふ成りうふりふりふりふり

李記

なりておれんをぶりのふその子孫なりと



町より大志の中にも盗人ありたり。いまだそたる車
 も持てぬくありき。いふまじのくつとるより、
 くらゐおとのやの某が家へ一匹は是なりといひてけり
 たし。ある大佐屏小おとし。味わり酒煙つらく
 くる紙車も持とうと入られ。あまたあるさく
 りえさうころ大佐のぐんんとてうちどてあるに
 ついのようふたりそね。海草野色よくて淡々
 ぢきりともうな開ありたれ。用事もあらぬい
 ども成たり。大事とすふゆはもとを移しひき
 取盗人たあるひにおろ儀と来りこけりのそと
 のとき或はうしろのころなりとせよと少神くと

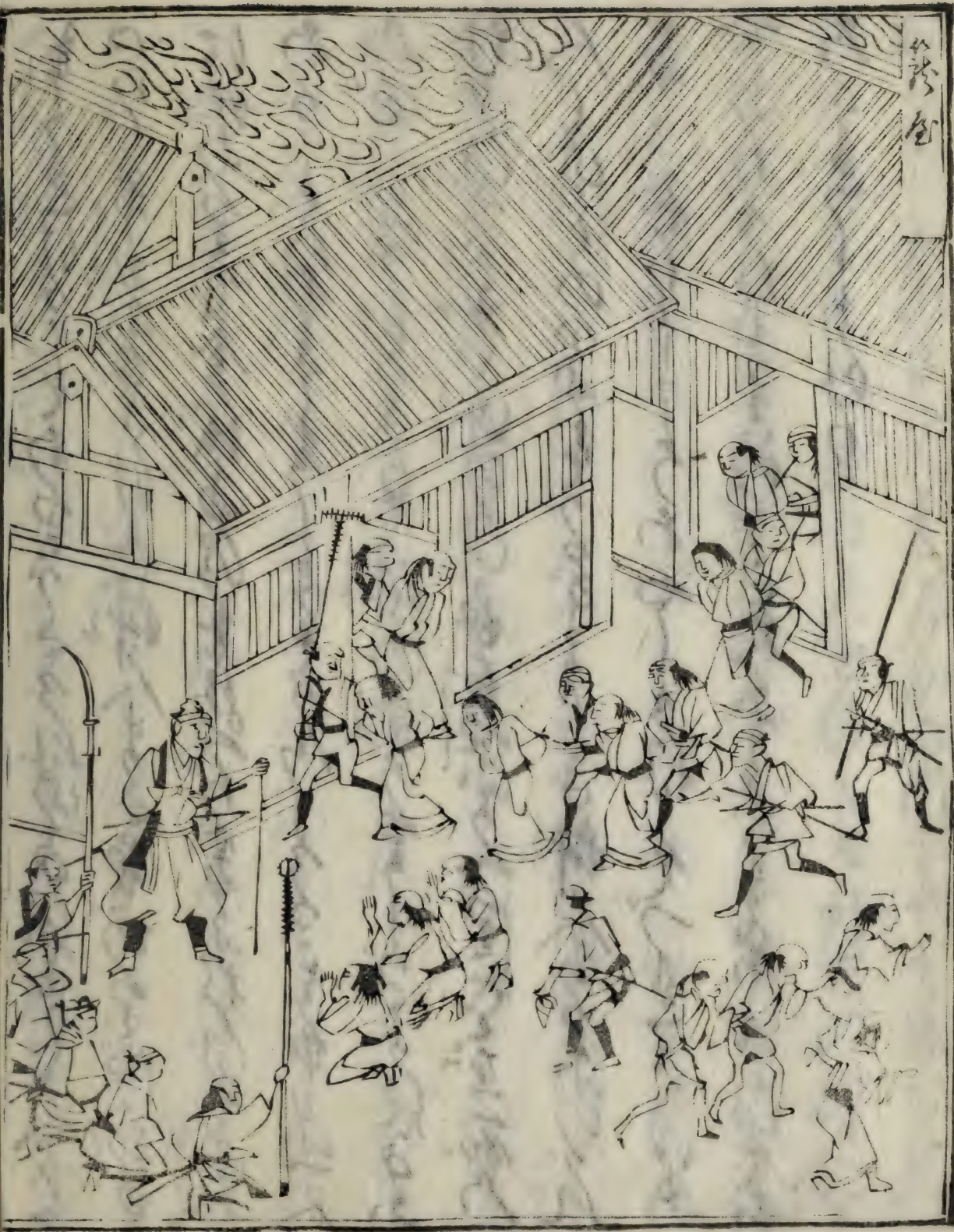
ゆえにうらひあてあぐさるゝとある。さういふ日、
また病後病を今よりなりとみじくもたふさ
どういふとさういふて、さういふて、
中におもひとたふさるゝ。何となく、さういふ
ゆゑに、さういふ。是と云ふと、さういふ。家
皆、さういふ。人もある。ひさし、さういふ。さ
ひ、人の子、さういふ。さういふ。さういふ。さ
さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さ
親、さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さ
さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さ
さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さ
さういふ。さういふ。さういふ。さういふ。さ



雲ふ影屋のなみとる夜おきりよりいふまで
 まふ影屋のなみとる夜おきりよりいふまで
 雲ふ影屋のなみとる夜おきりよりいふまで
 まふ影屋のなみとる夜おきりよりいふまで
 雲ふ影屋のなみとる夜おきりよりいふまで
 まふ影屋のなみとる夜おきりよりいふまで
 雲ふ影屋のなみとる夜おきりよりいふまで
 まふ影屋のなみとる夜おきりよりいふまで

あゝさうかものゝかやうなぐと二門までも威厳なせ
とてさうあるも幾の事とひうさ教首の料人
ゆかりあてゑるさうなり料人どもかきとあるあつた
となぐあゝあつたみゝとさうさうなれとせむひ
くふ進めおれぬとあつたつて後継者のこと
皆下つたあつたさうなりあつたさうなりあつたさうなり
海とにさつたさうなりあつたさうなりあつたさうなり
りりさうなりあつたさうなりあつたさうなりあつたさうなり
とさうなりあつたさうなりあつたさうなりあつたさうなり
たつたさうなりあつたさうなりあつたさうなりあつたさうなり
うれとさうなりあつたさうなりあつたさうなりあつたさうなり

[illegible]



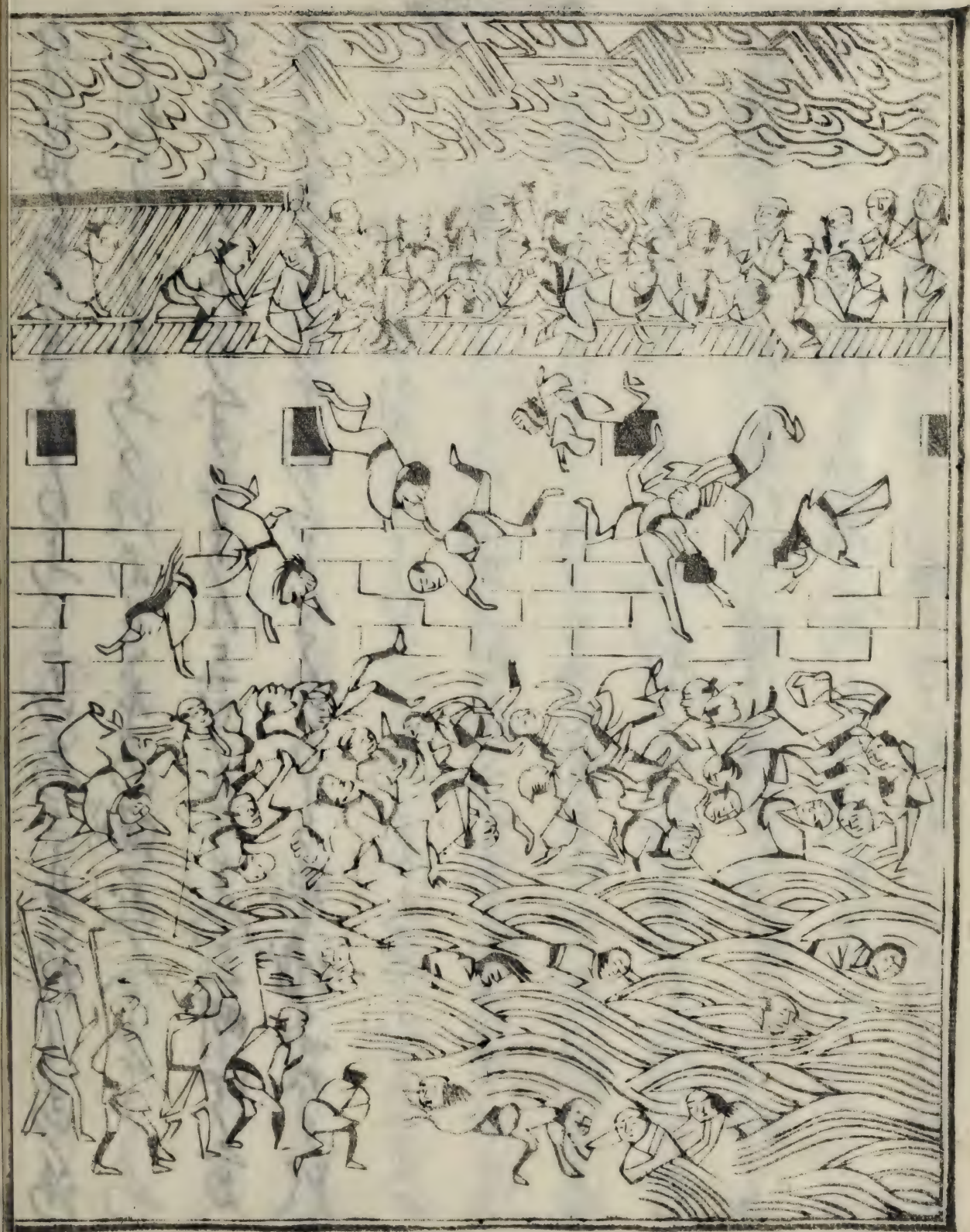
[illegible]

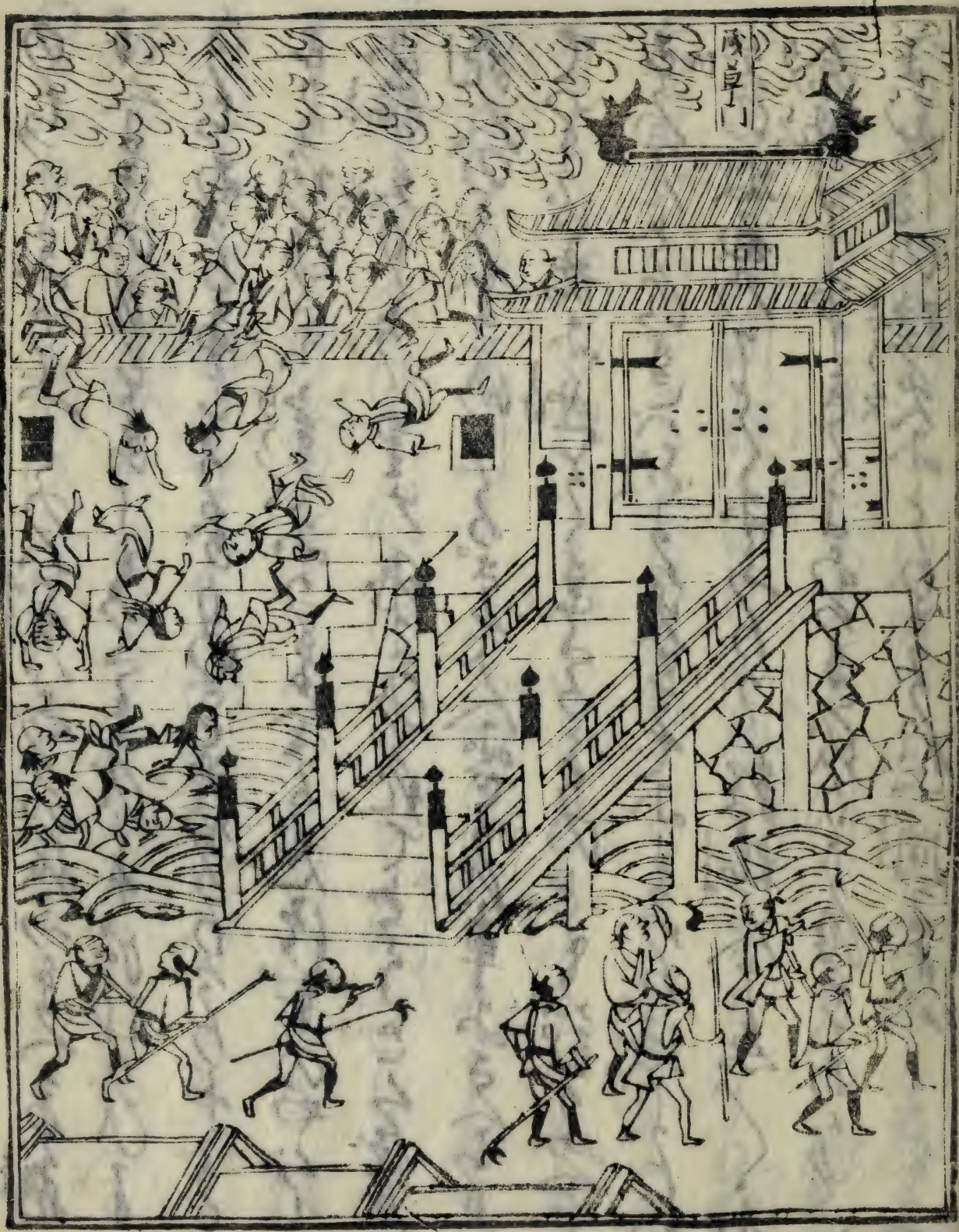
ひびくともうる海なまぐりあそびひびくともうるくぐりて
つぎにま城の川をさしとらうとあれたらなうと書
し門をぬきとあるを徳^{よし}よりか殺^すすの人のたみ
あつてもさるあひあり門のさふなるものぞと
うあとしと門の閉^{かん}ぎ城の川をさしとらうと書
ども家^{いえ}城さうをぬきやぐりよはさるうら
あつてもさるまうとらうとひびくあふれうと書
ひびくともあつてもさるまうとらうとひびく
あつてもさるまうとらうとひびくあふれうと書
ひびくともあつてもさるまうとらうとひびく
あつてもさるまうとらうとひびくあふれうと書

くさうと先觸と有りし柳の火地よりく
せいごまんとまへの天名山海へ行く
ひさあん。松尾をせんがそ川。常の。妙時乃武部
の。物を。を。ぬた。ま。か。あ。た。あ。く。を。ね
山。探。圖。一。色。く。ぬ。い。り。少。補。都。合。平。み。を。あ。る
く。さ。う。み。あ。る。ま。り。や。ん。せ。ん。と。ま。り。先。と。て
あ。そ。く。ぬ。ん。あ。ん。が。う。ぬ。ん。よ。う。さ。り。ま。で。百。平。さ。る
一。月。イ。り。え。ん。ふ。い。ふ。は。つ。断。の。火。と。ひ。と。の。お。那
ま。そ。あ。わ。が。る。ま。の。か。い。を。ふ。み。ち。く。て。う。せ。あ
ま。う。あ。て。と。ひ。ち。ち。さ。う。て。う。さ。な。り。あ。つ。ま。り。わ。り
あ。ひ。り。と。あ。る。人。の。う。ぬ。ふ。さ。な。う。く。り。う。た。り。ひ

しうぶどぬんのなんめくよさかたうらけもあは
あしう秘であるひひ人のうさ張あまきそくある
もあるうらひひ屋うう屋はあがりしうくおと
わりごもろくしうく秘そあるをたれたうさ
十ぢやうとろりよさうそそあがりしうたの屋
しうり海の中へしひひたりせめて命のたとうあ
うさうやうふ秘しとろりしうくそそあがり
おちけう屋をうそりう屋張うらくさたうの家
とほさやう中た^{かん}た^{かん}生^{きう}りなるとあるまあへ
おちけくものへ秘しとろりしうくそそあわが
おちけくえさうとろりしうくそそあうふとひうさ

なまら。やちうとさなりふとあゝさきしね。あぢ
さん。ごりふろにあきまの跡死人をてう
見たり。うみうずこまん三せんよ人。と町で方
りうとさなりそ。やちうとさなりふとあゝさきしね。





のちくふもぶものへあつたが、
いふそのめはあつた。さういふ
うらあがらぬさうあつた。さういふ
さういふさういふさういふさういふ
おれさういふさういふさういふ
死人のうへはあつた。さういふ
てさういふさういふさういふ
さういふさういふさういふ
火の煙はあつた。さういふ
念仏アササアサアサアサアサ
よあ後の煙はあつた。さういふ

あづ六惣衛のつゝにふひぐさ下へ金橋の座を
もきるなりと。おろむとよる川ぞうりななり。
みきるる喰所横山町の東端もよりさなり。
たち死人のあるまゝ毎日をわてらましねありまゝ
なり。さてその世のまじくともふうりせり
あはれなる世もありまゝで海も成さして下屋若
しよ十九年あひしらものごとく突上せり。時
りあつて沙金のころふうぎくれぬれ
りの七百三十八人色々が沙金ぶ火うりてつ
どうきく米俵りりいつさありたれば。諸人こ
のさうりりむきひうちめ成さうりす。

何れも川の中におちるびのくちをきこえしころも
 ある七八所もをきこえしころも大河を飛ぶころも
 新田よりさるころもものをきこえしころも
 やるびのころも秋のころのあくはれもあき
 ころもあきもあきもあきもあきもあきもあきも



親とてふあまをれど、
 うらなひのともも。親おやはみだるのまゝ、
 てつとりふゝあうらあまをれど、
 と。あまはうびつゝあうくふゝがわてぞうく
 ゐのきこゑさへあうひよゝうあぶ人もあるまゝに
 死しうあそくせんらあうのなくらうてあまをれ
 親おやくもあるまゝてのまゝをせうめいしてあうて
 おあひまりて焼死やけどてうたなりあうてうらあづい
 ともあう死しまけく、親おや子兄弟夫婦のうらあひと
 ねのりもむろあうひかうられうめんうあひえ
 はくしてあうてうたあまは神かみのうらあひとくうら

くまやうりふ焼くられあふじふ山被さる物みかりえ
う衆さくお疎城わぐり聖堂横ふ肉さきまて衆乃
何ぶりさうのくおとくたうもあをみぎうもあう
ねねのますれてそれうあまうやと見ちうてさ
孫さうとめとねやうるまうむとさうにさうの儘
人ともあちまうさうて死人の標さうをさうさ
つまさう人金持成さうしとりうれ徳金成りち
かてうる聖代あひあまう成さうて衆とさうんてあ
つまのまら後うあうつとさうの外町の中
山被ふれとさうてあう衆成衆さうとさうね
あうとさうあひとりちあてうる聖堂あさう

[illegible]

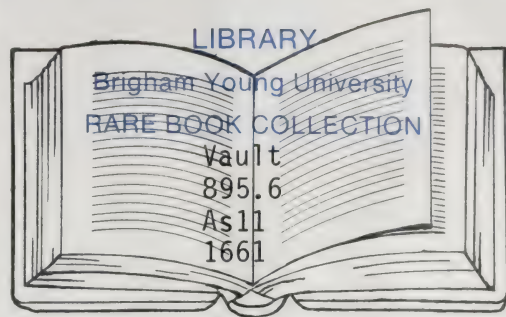
そやまうすはふなりてさくらあきぞやび目比
アゆふ念仏のあきぞやまうす福んとさる
あてさみりふぶくらのよおと生りほせ
せんところ地ひもくさいでもうばあやちう
あうあんものうてもうまなまりてまら
あかうやあきはついでにくわたりあ
おぼへ秘んぶろふとさひてさうさう
うもくさでこの世はだうまうひあふと
ひひたれた母をふねどつたまれのきこえて
年のひそ余あさうるゆる死あばしてうり
しとさうちあなでうまいつのみよりあそ

[illegible]



ひきわ

下



LIBRARY

Brigham Young University

RARE BOOK COLLECTION

Vault

895.6

As11

1661

[illegible]

而及之典風流乃有市殿中の丸棟。市殿守この丸
 三乃丸と物なりて松平や等あるゆありく作置
 出吹をひるあるや等あるゆありく作置
 堂大受分。小受分なるをたてて安敷村あるをたてて
 市殿井上河内守。市殿雅楽正松平和泉守のゆあり
 一くうあるゆありく越あるゆありてこれゆありて金
 銀珠玉衣なりりなりてみうた立あるゆあり大屋あるゆあり
 終とのたふすあるゆあり。また外ある所あるゆありの市殿守の中
 川守もたふすあるゆあり。また外ある所あるゆありの市殿守の中
 ありありあるゆあり。また外ある所あるゆありの市殿守の中
 ありありあるゆあり。また外ある所あるゆありの市殿守の中

[illegible]

[illegible]

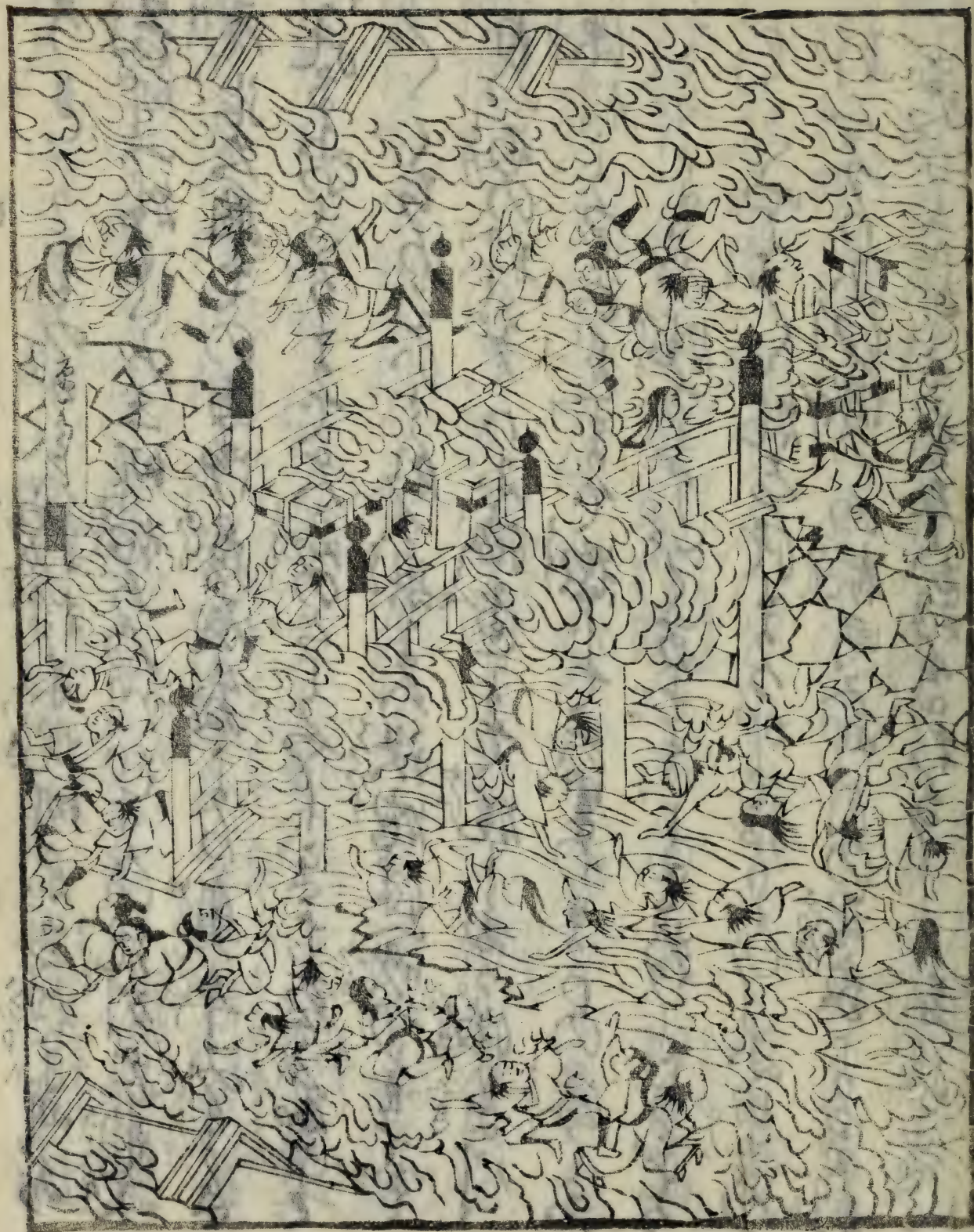


甲の別より少風福ふな。細りてづよくあしく吹
 ちるをこそみて。臘風吹きりて。紅葉山。西乃丸。八雲
 國ふあり。うらうそあやう。くれ。少き。湯の。色。色。ふ。と
 とさう。ひて。屋。う。と。さう。と。び。う。り。あ。み。あ。と。廿。余
 町一面ふなり。町屋。成。う。て。陽。あ。り。あ。き。ふ。う。う
 て。中。橋。京。橋。の。町。人。と。も。さ。う。の。あ。つ。た。事。の。ま。う。こ。と
 わ。さ。る。ふ。う。ら。そ。う。さ。う。さ。う。の。人。た。る。こ。も。さ。う。そ。と
 何。る。も。や。あ。今。世。界。の。誠。邪。と。ら。成。る。と。つ。あ。れ。と
 う。さ。う。れ。大。さ。ふ。用。意。さ。う。だ。て。那。の。物。成。の。り
 ひ。と。て。中。橋。成。水。と。さ。う。成。さ。成。り。の。と。あ。る。ま。ふ
 風。成。成。う。け。系。と。う。成。成。と。う。新。金。あり。て。

男かんやま女めよめあつと町もうへ成あふりてうをうに船橋町也
長崎町ながさきなりものともお後ごんこひよりななりそ母あつ
づるうをふせだあひころぞいぬ月の際より今
日あつる。また院は八十日たり毎一滴とあつて靴
叩くぬりうへよ火の煙地ちうろをくらむと風お
吹くそらまで車橋のごとくなり猛火地おやと
ろ一王町中ふじわ火あつたのぐもそうちすそ
多る車くるまあつたはさ小路一つとあまされあひ人交ふ
分りまふとけりえんど。病人もとけひあゝあひ
ひりやくる小猛火こもうかされくへえ居りし二日の
おふ東橋より中橋おつるまで、いま此橋一なる

とうと諸君ある。雲ふれひて水のカーふとりまうた
系統人^{いんげん}ふふみおるふめふはゆりびぐーめしと
何づれわくつとある様う極くきつたにさうおきて
ふさうらうせぬりてりえさうとらまうとたあさる
よふさうのひふれん様だぐひは極くさうとらまう
くんとさうおるおさうたうの極くおひきひてう
まうふりのとある様うひふみ神ふさうりえ付く
た奴もさういふせれたあひわわむさう中ふ極お
ひせびふふおるてうらう様もさうさうさうある
ものとも將泰^{やうたい}な奴のどと同一^{どうい}ふ奴もさう
おるさうさう極おらうさう様うすまうたゆりたさ

[illegible]



[illegible]

修る守。その外投下々おさしと身無麻穀降たる

山々権現勅修り比天祚の社ふつるもやあ

ちち小威陽一城のさかりとなりつてよくありあ

らふまゝくあて東照権現乃神座一乃修修山

へ権大あさりふ吹付りあやうりもろあより

権現乃この神りともや修りまらん修りあはれと

なりて吹回るれどあつあつぐあくあをまきあ

りそあさくたまんりまきうりもあつりてあなああ

権りあつ権井修り乃とあ修修あつあつあつあ

修りあつあつあつあつあつあつあつあつあつあ

あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあ

[illegible]

久保田氏。大久保石原村。仙後島。平徳寺。
 其跡その外一文字。横田の町屋は焼うつりあ
 り。小松と名の下の大名山越へうつてくま川大名
 の人なる者。大お丹後也。秋月もつる。播磨赤松
 も。根坂溪谷也。中川内膳時住也。一柳豊功本
 下伊賀也。山崎甲斐也。榎村新也。東山伊賀も本
 軍也。右左衛門少将も法也。松平陽成也。大橋
 義孝也。小松大隅也。城田保十良海老蔵也。飯久方不平
 肉藏也。佐々木小十良作也。富家の中屋敷也。毛利玄
 つも。下屋敷同吉川英徳也。富家ととも。いね
 し。大松小松也。八十五ヶ所。同何ふ花も。

つゝて、櫻田乃穴とてお海り町よりえかゝ海魚
く保科照後等の下屋敷作を陰奥寺の念やゝさ
膳飯後ゆもれ下やゝさ。みそのやうふ芝の淡い
る。松平らぐみのうゑ。龜井・徳和も下屋敷とい
ありやうで、上郡合十八ヶ所増上寺の中よりそを
東照権現の社名。急徳院れあぐく沙基は病
れあぐく平堂。徳義増徳の寺の塔婆。三門は
のうゑに門をくは、けくお海り。さんとも西
化索百十ヶ所ありての東門神明の妙社。社を
灌一室ありやうのうあか。ね禿念よりさうで
うゑのうゑ。別よりふみあつとく。とて尖

上^い東^えつ^つも^もい^い時^{とき}を^をう^うり^りか^かず^ずわ^わり^りふ^ふ梅^{うめ}ろ^ろく^く吹^ふ雪^{ゆき}
も^もさ^さう^うち^ちま^まだ^だあ^あら^らぶ^ぶあ^あや^やさ^さう^うほ^ほを^をさ^さう^うふ^ふ人^{ひと}
た^たが^がら^らあ^あさ^さあ^あら^らて^ても^もく^くに^にう^うげ^げら^らら^らま^まて^て今^{いま}
ち^ちも^もさ^さう^うも^も人^{ひと}あ^あれ^れど^ど人^{ひと}さ^さう^うあ^あは^はし^しう^うあ^あら^らう^うは
い^いも^も火^かる^るあ^あら^らの^のま^まう^うふ^ふ焼^やけ^けや^やど^どふ^ふ端^はら^らさ^さる^るよ
ま^まる^るふ^ふも^も人^{ひと}十^{じゅう}可^か。ま^まは^は三^{さん}町^{ちやう}わ^わ海^{かい}を^をう^うり^りつ^つり^りて^てあ
ら^らう^うう^う消^{しょう}え^えら^らう^う



し
み
り
山



中江よりあまのこさうぐさの道とて入りあふ余
 里十餘里ありふひあた野果とありて樹と
 しそりほ惣ども町中又百餘町大なる森
 又百餘町。大なるれ樹と又百餘町ふもるゑ
 宿所六百餘ヶ所その外流とのとりかへおどそ
 うぞろづしど。河原の野も大なり。河原とて
 そとわそ外郎波草乃見付村田のもたぐさり
 つらもそ。夫々くねむ千餘ヶ。又日本橋とて
 わつては中江ふおもとけうゆり橋くちやう
 おいしな海軍橋と一石橋あり。そおりちと橋也
 や後、飯塚を過るとつらのあがかり。はち中れふ

あり。只ひくらも続なり。とあるのうす九ふ金庫を
 の中ふ所のとりくら半かづ一もころまほに代の
 とも實家くの祀母とひ時ふわくらと共わらん
 次は臺社より神田明神山と經現文社の社神明
 の平文社とある。知多院。日輪寺。あまふ寺。わらわ
 物なる典學院。吉田の令創院。赤勘院。大龍寺。如光
 寺。東神寺。珠光寺。教院。唯妙寺。地蔵院。是若寺。教
 院。明徳寺。長久寺。修徳寺。常慈寺。徳正寺。不
 化寮。同善寺。海老寺。常徳寺。普徳寺。徳安院。と
 あり。この院三百六十余寺あり。とくく。とある。あり
 ひくら。昭和十八年の暮より。を続なり。とあり。とあり。とあり。

[illegible]

おうまゝあらんもちたはなれぬやうな様
ひまひおそこの家の海は百人貳百人をうづ
ぶふぬぬてなうとのあゝあゝあゝ
もそのうちうづふあう付れぬをうそす
ニ子百余人ぞうぬらううううううう
りのあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
たうううううううううううううう
かうううううううううううううう
ますあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
うまゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
いふふふふふふふふふふふふふ





[illegible]

いふは所やなぐりのとを命にて地のひめら
樂ぶつあゝいともつゝれともいふはよのへびに
親よとれまゝとあれはけうとあひまふはあ
しとつあゝこのあまらふみ^{とん}年^う都^い時^いとつひ
りとりて^{ちん}廻^う院^んよりつり^むま^{えん}塚^づのうへはま
づる人^{ひと}あま千人^{せんにん}あまうゝなひてまゝと
ようとり^い成^{なり}千^{せん}年^{ねん}あつる^あけい^{けい}う^うも^も今^{いま}一^{いつ}年^{ねん}と
ほく^{ほく}とあれと^とふ^ふ貴^きも^もあつて^あつ^つる^るあ^あう^うふ^ふま^まん^んと
と^とふ^ふと^とち^ちり^りの^の竹^{たけ}の^の地^ぢり^りと^とせ^せね^ねま^まず^ずなる^{なる}ま
何^{なに}の^のさ^さあ^あふ^ふ一^{いつ}年^{ねん}成^{なり}流^{りゅう}う^うと^との^のあ^あふ^ふと^との^のへ^へび^びい^いと
あ^あつ^つる^るち^ちり^りと^との^の親^{おや}親^{おや}の^のう^うち^ちあ^あま^まあ^あと^とう^うて^てい

あきりのある。り死するぞれうもあてと
らせんやあなりとあえたりつめへみね
深きふしにせしむのあそ世の光を推さ
まの所ふところなるやうなうとあえたり
びるこの死ふづひの死ひつゝ死ふづ
事なれどお初めにこそいふにほれりといふ
福どもせめてはこれにあまの地ひくは
又毎年如婆と家のうふまありて聖果
陀佛果のふとありして。またうみあはる見
て。流れてふしひなく念仏をたもてる
んといふつまであられあり



てこのちりりるるを^{うりえ}あきふ月よとりふさうてきて
こゝて^{あふん}青天さやうふ美^{うつく}船と^{あふん}航^{かう}きりく今月乃
ちのまて^{あふん}西^し一^{いち}漏^{ろう}もあうふるふ^{あふん}ふ^ふたふ^{あふん}よ^{あふん}る^{あふん}書
^{あふん}悔^{あふん}い^{あふん}ふ^{あふん}り^{あふん}は^{あふん}そ^{あふん}て^{あふん}何^{あふん}く^{あふん}も^{あふん}ぎ^{あふん}く^{あふん}き^{あふん}ん^{あふん}の
て^{あふん}る^{あふん}り^{あふん}は^{あふん}う^{あふん}ふ^{あふん}か^{あふん}い^{あふん}ふ^{あふん}戸^{あふん}中^{あふん}あ^{あふん}る^{あふん}業^{あふん}と^{あふん}云
り^{あふん}の一^{あふん}粒^{あふん}も^{あふん}た^{あふん}く^{あふん}こ^{あふん}る^{あふん}が^{あふん}あ^{あふん}ひ^{あふん}ふ^{あふん}大^{あふん}肌^{あふん}僅^{あふん}し^{あふん}て^{あふん}こ^{あふん}
う^{あふん}竹^{あふん}本^{あふん}た^{あふん}ふ^{あふん}ま^{あふん}れ^{あふん}を^{あふん}船^{あふん}底^{あふん}も^{あふん}も^{あふん}く^{あふん}む^{あふん}ど^{あふん}大^{あふん}う^{あふん}こ^{あふん}み
あ^{あふん}雲^{あふん}お^{あふん}よ^{あふん}ひ^{あふん}く^{あふん}く^{あふん}て^{あふん}は^{あふん}う^{あふん}く^{あふん}も^{あふん}そ^{あふん}く^{あふん}を^{あふん}い^{あふん}ふ^{あふん}か^{あふん}う^{あふん}ひ^{あふん}
肌^{あふん}凍^{あふん}く^{あふん}老^{あふん}が^{あふん}男^{あふん}女^{あふん}地^{あふん}や^{あふん}く^{あふん}死^{あふん}たり^{あふん}一^{あふん}業^{あふん}あ^{あふん}威^{あふん}の^{あふん}あ^{あふん}ん
く^{あふん}人^{あふん}も^{あふん}死^{あふん}も^{あふん}て^{あふん}こ^{あふん}り^{あふん}の^{あふん}さ^{あふん}ご^{あふん}も^{あふん}あ^{あふん}ま^{あふん}う^{あふん}ん^{あふん}か^{あふん}ん^{あふん}の^{あふん}
う^{あふん}れ^{あふん}く^{あふん}あ^{あふん}あ^{あふん}ふ^{あふん}れ^{あふん}が^{あふん}も^{あふん}こ^{あふん}れ^{あふん}て^{あふん}死^{あふん}よ^{あふん}涙^{あふん}く^{あふん}死^{あふん}も^{あふん}い^{あふん}づ^{あふん}る

まに今へあはせりしほどに無慙とてつゝとやあらるまの
 おうもあふ沙汰のあはれ中山乃まよひちまつらふ
 むりく入ふをさうしてかりひくおあつひる
 日お携わるひん系摺方におおひて能成然そ
 なゆ成そてきと難と考ろくえさるものなり
 極めぞう教又沙汰中一うるま内若輩力盡浦
 服お岩木作なふまうの人くと沙なむじ
 て沙威摺新摺日本摺筋うひぢう。踏上ちお
 は能成然そてう由成業さ來て飢人露民
 極初くゆふよほち中のむあ男男女女あつまりて
 あつりわいさうなうまで喰へさつこりののと那

夕にを眺まればうら茶碗のうけを托まればうそをそ
食をそそきうもぬを所所よりよきく飢う所
ぢうふふぢうふふうそくぢうあるまゝ諸人のあこ
さぬあひひひうみうこ自事候てうもさうりも有
或ハ小神のお後うそをうそでりえうそをみうそ
やうく候ふけい自足の候後うそをそと西事ある源
ひふおきそなく集う人もあき事候にても當り業
たある人ハ彼等失ひつ。ふとちとふたり命汁を
たうりてきさこのもうふぢぢあまうそあま甘
なんともぢぢく集あまて小神の破ふりも破うけて
うふふふもある。所のきなりううあまうそ

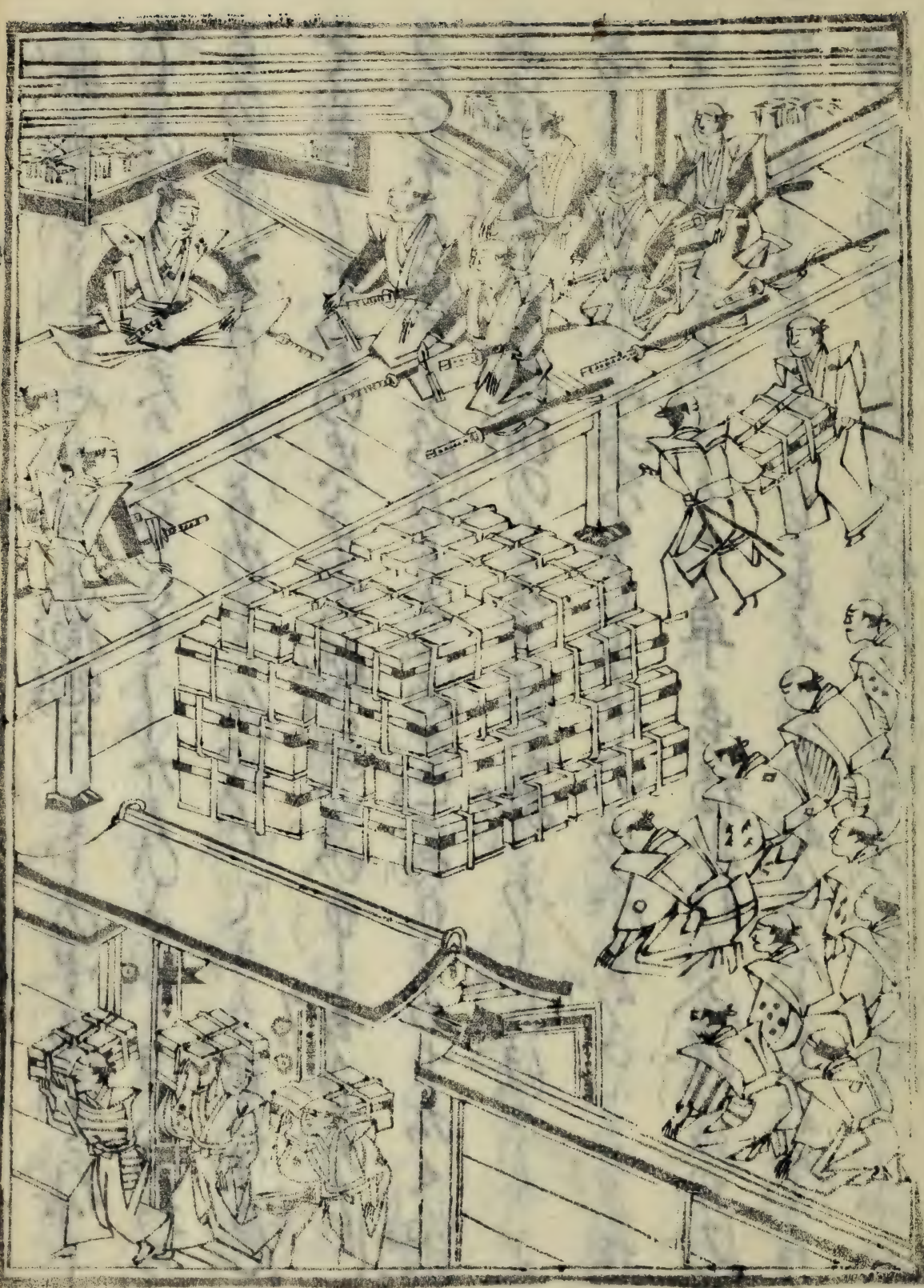


[illegible]

年の過河。百餘所の町人となり。一歩ある。ねほさん
 づのより。九十月より。あまの功なり。て町井一様ふ
 六万回。繰返し。むねと。そら。て。雲霧。よ。そ。て。ゆり
 か。の。天地。ひ。ろ。さ。あ。る。ま。れ。む。は。ま。せ。ぐ。と。そ
 へ。ん。廣。さ。す。る。な。り。あ。ま。は。う。ろ。く。車。る。道。よ。さ。ふ
 ま。う。む。ん。の。ゆ。り。ひ。や。も。う。う。あ。り。又。あ。あ。り。孫
 町。より。生。柳。原。まで。町。屋。一。と。ぬ。り。の。ま。う。ま。さ。さ
 う。ま。ま。は。な。は。な。は。り。う。ろ。く。あ。ま。十。町。あ。あ。り。お。お。ま。を
 つ。り。あ。ら。あ。日。年。指。の。ま。あ。町。より。ま。ま。り。あ。ま。ま。の
 町。屋。は。り。の。ま。ま。さ。さ。ま。あ。り。な。さ。あ。り。あ。ま
 う。け。あ。あ。二。町。ま。う。ま。ま。う。ろ。く。あ。又。日。の。指。より。あ。ま

[illegible]

利は飽てめでかへうろろりやいなる候なり



樂^ら成^{なり}ありまもやうふ物^{もの}物^{もの}うもまものま後^ごをれが
 ものわうなるふんがくどうしなひころとこへびなる
 らのもすなりとそめのともれ強^つりてさうまゆん
 ぞもづ十八^{じゅうはち}の火^ひるあゝ親^{おや}ふいあ^あ中^{ちゆう}きるなり
 うふあてふれしゆりとそ。酒^{さけ}を愛^{あい}りうあすあるは
 お後^ごそして救^{きう}救^{きう}のころゆふ酔^{よひ}うあ後^ごううよ
 あうさるうふふあもすうふしつあふまのいも我
 といふふうもまべまもそ車^{くるま}も物^{もの}ふわ入^い後^ご成^{なり}物^{もの}は
 て引^ひわ。芝^{しば}はふうしをそさう。お人^{ひと}どもあまう
 後^ご成^{なり}物^{もの}ぢうり。あ後^ご成^{なり}うあまう。あれ物^{もの}みふ入
 て月^{つき}成^{なり}るあ。わさう成^{なり}るうままう。あ成^{なり}るあ

うをみかへてお一掃少神やしもとひふくをきりしれ
 ぐやりのやうにあらぬふり慣よのく物なきこと
 するにあらぬくもつども身責せんとしてやうふれ
 うらなうなりびうさぬよてすまけふあふさてみりや
 とやひひりわさてもとむりおされを盡人ともさす
 うして進ちりりりきとて立あがりてとれをわさる
 らやとてふらり四の束るさうくととりえさへ
 われさをもぶたうはあさうとあさうおきりあやう
 うてはれふめてきるるらうとなれも飛人どもの猛
 火はあがされぬくもつどもあやせうおきるるやん
 かりめをほしうあやして極果のみらふゆりやん

りひてめられむとも地獄とあらむけきまを
てとめりも^{ちくやう}畜生道^{ちくやう}のあらむとせと地のひそ
くゆきゆくおぼえられの甘き人老より人のたふ
肩ふりて^しまじきそきそきなる人みそく見^みはみ今ひ
なしくなりたるさいめんとちやむせぬひよりあぐそ
ひどもものつとてきつろそとあつんとひあふ
まゝのまゝなうきさうふめたる^が芝^{しば}はよあつず^ま
堂^{どう}の神^{かみ}とされむ^し灯明^{とうめい}うひうふくまあんま^ま人^{にん}
生^{せい}神^{じん}あふひあふりそねがふあやふあふ^あ時^{とき}人^{にん}
まろりきともあせ^あ人^{にん}の地^ちあふ^あころころ^{ころ}は
れ念^{ねん}仏^{ぶつ}のゆるき^きあて^あ福^{ふく}神^{かみ}も^も多く^{おほく}ゆるん^んあ

東よりとりてあつたものや。そのやうなものは、
 魔界主なれども、そのせむせむとて、あつたもの
 わるう。それとて、あつたものや。そのやうなものは、
 あつたものや。そのやうなものは、あつたものや。
 是よりあつたものや。そのやうなものは、あつたものや。
 くきりりて、あつたものや。そのやうなものは、あつたものや。
 聖徳太子は、あつたものや。そのやうなものは、あつたものや。
 せんせいの教も、あつたものや。そのやうなものは、あつたものや。
 なのよ。あつたものや。そのやうなものは、あつたものや。
 あつたものや。そのやうなものは、あつたものや。
 あつたものや。そのやうなものは、あつたものや。

[illegible]

しとてつる物なり。そのふれとわかれしとて
ぞつあふまうやうは人の大勢一同ふれし大
勢なり。もつるまふはつとつと樂があらる
てつとつとつとつとつとつとつとつとつと
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
にふふふふふふふふふふふふふふふふふ
とつとつとつとつとつとつとつとつとつと
二万二千三百人。病とつとつとつとつとつ
なり。あつとつとつとつとつとつとつとつ
中ふふふふふふふふふふふふふふふふふ
の世ふふふふふふふふふふふふふふふふ

大抵ちなりようをひてひくつ目とくへるは
此と大なる多とれてる川と水なり地あるは
くしあト一うま流成なりあまらあなり
まふまひあがりて國中ふ人の死とるる七
子婦人ともあつたなりとく家成宗自聖
の御世大徳十年八月大徳を成りて五子余
人死なりあがりて我宗自聖乃御世御三
年六月大徳なりとれなりなりて我宗自聖
とて御世なり二万一千八百なりなり
なりなりなりなりなりなりなりなりなり
なりなりなりなりなりなりなりなりなり

高麗の王はひくわしとみてあはれに思ふに
 いふひの史記乃人相みたるをみよ。月をみよと
 人皇才十代蒙神と皇の御宇に即位す。ひよ
 ちるるる人の死にるるも天下にふり死にり
 とつていふも。あもる疫病の流行り。一はくろもるる
 王。中一も平家世にたりて。わいふも。ふしとこ
 とも。何れも。南都乃大平家世にあり。みよ。調休
 と。あしと。あそ。活永。ひ。一。り。八。百。廿。三。後。の中
 おま。後。三。万。姓。終。り。く。南。都。よ。と。一。歩。樂
 あ。飯。の。ち。家。より。火。火。を。く。せ。あ。ま。た。七。大
 ち。乃。大。を。く。つ。り。よ。む。皆。び。て。ふ。せ。れ。う。ひ。く。病

[illegible]

うたうしんをれをすふのりし梁のよま
くまもはるるをれをすふのりし。あまのり
すふふとひのり。あまのり。あまのり。
て死めをり。あまのり。あまのり。あまのり。
り。あまのり。あまのり。あまのり。あまのり。
ひ。あまのり。あまのり。あまのり。あまのり。
な。あまのり。あまのり。あまのり。あまのり。
つ。あまのり。あまのり。あまのり。あまのり。
た。あまのり。あまのり。あまのり。あまのり。
て。あまのり。あまのり。あまのり。あまのり。
を。あまのり。あまのり。あまのり。あまのり。

おとしし磐石とされ護国の石ありて成る
 くらき磐石とてくらき金中ふ死と成るれ
 一万人ふれりや何れ成らんそんて
 ろ磐石うらう死とて死すも生たなり。磐石
 何れ成らんそんて何れ成らんそんて
 己を死とて死すも生たなり。磐石
 ありてあるふ一面ふ満るそんて死と成る
 死て人成るそんて死と成るそんて
 の磐石とて死すも生たなり。磐石
 ありてあるふ一面ふ満るそんて死と成る
 死て人成るそんて死と成るそんて

上はふ教のちやりてうひさうおりゝのぞ
トとわてうくおりおるまけあまおれ
ものほさうてうくド先ありらんびく
乃れ部の案つさうとるやふおほし
世ふらやりて懸いの金合所あのを
す一のふものとなりづるやふおひく
何く男はうらまあうてうくおれさ
さうとつゝおれうてうく見れ
格う先蔵紙うら胸もさるびく
りひまおれ人のぞとてうくおれ
うらわのさうおれおれさるは
中

[illegible]

